

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171400049		
法人名	社会福祉法人唐津福祉会		
事業所名	グループホーム浜玉荘		
所在地	佐賀県唐津市浜玉町東山田2399番地		
自己評価作成日	平成28年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=true
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年12月7日	外部評価確定日	平成29年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【わくわく】私達は、理念にある「和・ほ！えがお」とあるように、安心して笑顔で暮らして頂ける支援と利用者職員が信頼し合える居場所作り・地域参加出来る居場所作りを目指しています。また特別養護老人ホームや居宅サービスとも隣接しており、顔馴染みの方とも出会い易い環境にあります。【うらら】入居者の方が役割や楽しみを持ちながら生き生きと暮らす地域の中で安心してその人らしい生活を送ることができるように努めています。職員は常に入居者本位に物事を考え、入居者の方のその時々ニーズを察知し、笑顔を引き出せる支援に努め、研修等を通して介護職としての専門性を高められるよう、努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地から離れ自然豊かな環境に恵まれた場所に、特別養護老人ホームや通所系・居宅系の介護サービス事業所と隣接して建つグループホームは、特別養護老人ホームと棟続きのユニットと平屋一戸建ての二つのユニットが独立して存在している。それぞれユニットごとに理念を持ち、利用者中心のケアで互いの良い所を取り込み、助け合いながら、理念を実践している。</p> <p>近くに隣家はないが通所介護など利用する地域住民が多く利用者とのつながりが多い。また広い敷地内には、春には桜・ツツジ・藤などの花々が咲き、利用者の散歩コースとなっている。職員は管理職をはじめ、職員一人ひとりが質の向上に対する意識も高く、勉強会などにも積極的に参加しており、更なる向上が期待できるホームである。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まず、理念はわかりやすく覚えやすくしており、職員全員が言えるようにしている。わくわくの理念である「和・ほ！・えがお」に基づき利用者の笑顔を引き出せるように努力している。	「思いやり・支え合い・笑顔」を理念としており、毎日、入居者と職員で唱和し、入居者・職員が家族であるという意識を持ち、理念の実践に取り組んでいる。	それぞれ開設時に作成された理念は、「思いはそのまま」と今も継続され、リビングに掲示されている。また、ケアの実践に向けてわかりやすい項目にし、毎日朝夕に唱和することで意識付けを図り、日々のケアに活かされるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地上の問題があり、気軽に出掛けたりが難しい状況にあり、祇園祭・チャリティショー・地域運動会・食堂・理美容・お茶会等、関係性が途絶えないように計画を立てている。	併設の特養や通所介護には地域住民の利用者が多く、交流の機会が持っている。また地域行事(祇園祭・運動会・チャリティショー等)への参加も積極的に行うようにしている。	近くに民家が少なく近隣住民とのつながりは期待できないが、地域の行事等へは運営推進会議を通し、情報を得て積極的に参加している。お礼にと地域の学園の生徒が草むしりのボランティアに来ていただいた。また、併設する施設全体で行う夏祭りには地域の方々を招いたり、様々な機会地域住民との交流が深まるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型GHの役割としても、利用者が以前住んであった地域へ出向いたり、面会時に地域の方やご家族との話の中で、認知症の人の理解や支援の方法を助言したりしている。	地域住民の方と入居者との交流を実際に持つ機会があり、そのような場合に認知症の理解や支援方法を知って頂けるように努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まずGHから活動内容を報告し、各委員に問題提起して頂き、GHでその疑問に答えている。又、議事録を作成し事務局以外の職員も推進会議の流れ等を把握出来るようにしている。	2か月に1回開催しており、現況報告を行っている。会議録を作成し、全職員に周知し、意見をサービス向上に反映させている。	運営推進会議は行政、区長、民生委員、老人会会長、利用者家族などの参加で二ヶ月ごとに確実に行われている。会議のメンバーの任期は2年で、出席率は良く、事業所の現状報告や写真をつけての行事報告が行われると同時に、意見交換の場となっている。時には厳しい意見が出ることもあり、出た意見はサービス向上に活かしている。議事録もきちんと記載されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には必要時いつでも連絡をとれる体制にはなっており、疑問点があればその都度聞き適切な回答を貰い質の向上に繋げる取り組みを行い、協力を頂いている。	質問や相談がある時は市町村の担当者に連絡するようにしており、協力関係が得られている。	市町村担当者とは運営推進会議などへの参加もあり、日頃から連絡を取り合う関係を築いており、相談ごとにも実直に対応してもらえる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束内容については勉強会等にて理解できている。ハード面では個々の思いでいつでも外に出る事が出来、内服薬に関しても専門医の助言を貰いながら最小限の処方となっている。現在夜間のみ1名行っている(ベッドを柵で囲む)。	身体拘束についての勉強会を事業所内で行い、全職員が理解できているが現在は夜間のみ3名の方に身体拘束(ベッドを柵で囲む)を実施している。	職員は身体拘束をしない支援についての認識が高く、精神的な拘束や言葉による苦痛のない支援を心がけている。出入り口は施錠しておらず利用者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。やむを得ず転落防止のため、家族の要望もあり、夜間にベッド柵を使用しているが、使用しない支援に向けて検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームでは、特に言葉による精神的虐待がなされないように言葉遣いは注意しあっている。又、認知症実践者研修等で学んだ事を現場に反映している。	高齢者虐待についての勉強会を事業所内で行い、学ぶ機会が持っており、職員による虐待が発生しないよう不適切なケアの自己チェック等も定期的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を定期的に行っている。現在、日常生活自立支援事業(安心サポート)の利用者が1名おられる。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を事業所内で行い、学ぶ機会が持っている。現在は必要性のある入居者はおられず、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書以外にも文章を作成してそれに沿って説明をしている。契約等の際はじっくり時間をかけてわかりやすく説明をさせて頂いており、理解・納得を得ていると思われる。	分かりやすい説明を心掛け、不安や疑問点を聞く機会も設けており、十分に理解・納得して頂けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に利用者の意見に耳を傾けている。又、定期的な介護相談員来訪で、要望を聞いて貰っている。ご家族に関しては面会時やケアカンファレンス時に意見を貰っている。	入居者には普段から、家族に対しては面会時やサービス担当者会議時に意見・要望を聞くよう心掛けており、運営に反映させている。月1回、介護相談員の来荘もあり。	面会時や家族同席のサービス担当者会議は意見や要望が引き出せる場と捉え、何でも言ってもらえるよう努めている。ここ最近では法人内での人事異動などで、職員の入れ替わりが多いとの意見があり、出された意見や要望は運営や支援に活かすべく検討されている。事業所の外にも苦情や相談窓口があることは書類にも明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎月の会議にて職員より意見や要望を聞く機会を設けている。管理者は出来る限り現場に出向き、職員の意見を聞きやすい環境作りを行っている。	代表者や管理者は毎月の会議にて職員より意見や要望を聞く機会を設けており、その他、意見や要望がある際は随時、代表者や管理者に相談できる体制となっている。	管理者もスタッフの一員として働いており、職員の普段の声にも耳を傾けながら、また月1回行われる職員会議では、意見や要望を聞いて、運営に活かす努力を重ねている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況・悩み・疑問等を把握できるよう努めている。給与に関しては、唐津福祉会に属する他の同法人と水準を合わせて条件整備に努めている。	年2回の賞与時には自己評価と管理者の評価を行う機会があり、職員の目標等も把握できている。また代表者は職員が働きやすい職場環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修の受講修了者がいて身を持って現場反映に努めている。又、荘全体勉強会にも出来るだけ参加している。	職員一人ひとりのレベルを把握できる体制にはある。法人内においては全体勉強会が年4回あり、その他、法人外の研修を受ける機会も設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列事業所職員との会議やグループホーム研修会などへの参加にてネットワーク作りに努めている。今後は、系列事業所間の交換研修なども検討している。	系列事業所職員との会議を定期的実施しており、その他、グループホーム研修会に参加する事で交流が出来、意見交換したことをサービスの質の向上に繋げるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は、ゆっくりと話を聞く事で安心感を持って頂き、得意分野を生かし、生きがいをを持って頂く事で、徐々に信頼関係が築けている。	入居時にはコミュニケーションの機会を多く持ち、関係作りに努め、本人に困り事や要望等を確認し、ケアプランにも反映させている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居され間もない場合は連絡を密に取りながら、ご家族の気持ち・要望等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。	入居時には家族と面談を行い、困り事や要望等を確認し、関係作りに努め、また確認した内容をケアプランにも反映させている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅時の担当ケアマネージャーとも情報を共有し、いくつかの方向性を説明し、お互い一番良い方法を選んで頂けるような配慮を行っている。	入居時には本人・家族と面談を行い、困り事や要望等を確認し、アセスメントを実施した上で必要な支援を見極めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、食事の段取り(お膳並べ・後片付け)洗濯物干し・畳み等家事全般を職員と一緒にを行う事で、ご本人の意欲に繋がっていると思われる。	職員は「介護する側・される側」という概念を取り除き、「共に生活する」という考えを念頭に置き、支援においてもさり気なく自立に向けた支援に努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は基本的にご家族にお願いしている。ご家族での受診が困難な方は職員が対応している。又、半年に1回のカンファレンス・年間の大きな行事には必ず声掛けしている。	家族も支援チームの一員との考えを入居時に家族に説明し、理解して頂いており、家族が行う支援もケアプランに位置付けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り馴染みの場所に出掛けられるような働きかけを行っている。併設のデイや特養の利用者に出会って頂いたり、地域行事に出来るだけ参加し、交流が出来ている。	馴染みの人や場所との関係が継続できるよう、生活歴や人間関係等の把握に努め、家族とも協力しながら支援に繋げている。	利用者の思いを聴いて関係継続の支援に努めている。家族とともに馴染みの美容室に出かけたり、併設しているデイサービスへ知り合いを訪ねたり、できるだけ馴染みの関係が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や精神状態を把握する事で、利用者同士の相性等も配慮する。又、利用者同士が仲良く関わってある時は、職員はあえて介入しない。	職員は入居者同士の関係を把握しており、関係性に配慮しながら、支援に努めており、入居者が孤立しないよう必要時には職員が介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退居後もご本人・ご家族への不安を察知して出来る限り相談や支援に努めている。	契約終了後も相談等がある場合はフォローを行っている。併設の特養への転居ケースが多いがその場合は本人に面会に行ったり、スタッフとの情報交換を行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中から希望や意向の把握に努めている。又、6ヶ月に1回のサービス計画見直し時にはご本人に希望を聞き、取り入れる事で、サービスの質の向上に努めている。	介護計画作成時や普段の生活においても常に意向を確認しながらの支援に努め、困難な場合は生活歴や家族からの情報を踏まえ本人本位になるよう検討している。	利用者に寄り添い、一緒に食事をしながらゆっくり話をして意向を聞くようにしている。また、ちょっとした行動の変化などで思いを察し支援に活かしている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に話を十分聞く事で生活歴の把握に努めている。また入居前の担当ケアマネージャーからも情報を得るよう努めている。	入居時には入居者と家族より生活歴等の情報を得ている。また入居者からは普段の会話を通じて家族からは面会時や会議時等にも情報量を増やせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの現状把握に努めている。又、一人一人の生活リズムを崩さない範囲で共同生活であるという事を理解してもらえるような言葉掛けに努めている。	入居者一人ひとりのその日の意向や現状把握を行いながら支援するよう心掛けており、変化や気付きがあれば、職員間での申し送りを行い情報共有できる体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族との話し合いは勿論の事、担当医にも助言を貰っている。1ヶ月に1回はモニタリング・半年毎の評価で介護計画の見直しを行い、現状に即した支援が出来るようにしている。	介護計画作成時は本人・家族の意向を確認した上でアセスメントを行い、介護計画原案を作成し、サービス担当者会議を開催している。	職員全員が一つのチームとなって利用者本位の具体的で実現可能な計画が作成され、設定期間ごとの見直しはもとより、本人、家族の要望や変化に応じて柔軟に随時見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況の変化は、ケース記録に記入し、特に重要性・緊急性のあるものについては気づきノートの記録や申し送りを行う事で職員間の情報の共有・実践に繋げている。利用者プラスとなる「ひらめき」「アイデア」を全職員が出しやすい状況を作っている。	日々の様子等は個別記録に記入しており、情報共有が出来、支援に活かしている。また気づきや改善点がある場合は即座に話し合い、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	浜玉荘特有の特養・通所介護などの併設機能を活かしている。例えば、特浴が必要な場合には浴室を借りたり、スタッフの協力を得ている。又退院後、リハビリが必要な場合等は地域リハビリセンターに依頼し、指導を受け実践に繋げている。	家族支援が困難な場合には個別的に外出支援(買い物・ドライブ)を行ったり、病院への受診支援を行ったりとその時々ニーズに応じた対応出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや食堂に出向き、豊かな暮らしが出来るよう支援している。また地域行事に参加する事で地域と協働出来るように努めている。	入居前からの地域資源の把握に努め、継続して活用できるよう家族に働きかけたり、職員も地域に出掛ける機会(地域行事・ドライブ等)を積極的に作るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続できるような体制になっているが、入居の際にご家族より、かかりつけ医変更の相談があれば、話し合いを行うようにしている。	本人・家族の意向を大切にし、入居前からのかかりつけ医を継続できるような体制になっている。現在は往診の方ばかりである。	利用者や家族が希望するかかりつけ医の往診が受けられるよう支援している。利用者の状態に変化があった際や、緊急時などは職員が同行し対応している。家族にはその都度報告している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は週1回看護師が勤務しており、情報の共有をはかり相談を行い、助言を受けている。また看護師不在時は24時間の連絡体制が確保できている。	医療連携体制加算を算定している為、週1回は看護師が勤務しており、情報の共有を行っている。また看護師不在時は24時間の連絡体制が確保できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護添書でGHでの生活状況(精神・身体面)服薬等の情報を伝えている。入院中は定期的に面会し、ご家族・医師・担当看護師等との情報交換に努めている。	入院時には情報提供を行い、早期に退院できるよう担当者と連携をとるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した場合や終末期のあり方に関する説明を行っており、必要時には関係者間での話し合いを十分に行うように努めている。	重度化や終末期の対応についての事業所内の目安を決めており、入居者の状態に応じ、随時、家族・主治医と話し合う体制が出来ており、方針を共有できるよう努めている。	重度化や終末期の対応については契約時に説明を行っている。重度化した場合の方針を確認し、併設施設などの体制も含め、お互いが納得した最期が迎えられるよう説明を行っている。看取りができる体制は整っており、要望があれば看護師、主治医と綿密に連携を図り、状況の変化に合わせて何度も話し合いを重ねながら、利用者や家族が安心して過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応や応急手当の研修を定期的に計画しており、AEDや酸素使用などの訓練を行っている。	救急法(心肺蘇生法・AED)の実技訓練は法人内や事業所内にて定期的に勉強会を行い、手順の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、法人内での防災訓練(火災・地震・風水害・原子力)の実施あり。事業所内でも夜間想定火災訓練を定期的実施するようにしている。	月1回、法人内での防災訓練(火災・地震・風水害・原子力)の実施あり。事業所内でも夜間想定火災訓練を定期的実施するようにしている。	同一法人全事業所合同で火災・避難訓練が行われ、毎月実施されている。年2回は消防署や消防団などの立ち合いで行われ、実際の夜間訓練も職員のみで行われた。職員の防災に対する意識は高く、消火器の設置場所、取り扱いの確認を行い身につけている。避難誘導場所の確認や非常食や備品の蓄えなど併設施設と合同でできている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や特徴を理解した上で言葉かけを心掛けており、特にトイレ介助に関しては、自尊心を傷つけない範囲で支援している。	浜玉荘の経営方針にもあるように「常に尊敬といったわりの念を持って接遇する」ことを念頭に置き、入居者への言葉かけや口調・対応には十分配慮している。		職員は利用者お一人おひとりの人格を尊重し、排泄介助や入浴介助には気配りし誘導するなど誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう努めている。事業所に掲示する写真などの個人情報についても本人や家族の承諾を得ており、管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの一方的な言葉だけでなく、利用者が選択出来るような解り易い言葉かけを行い、自己決定に繋げている。日常生活全般においての強制はしない。	生活全般において自己決定できるような言葉かけを行っており、表情等からも思いを察する事ができるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペースが遅い人にはその人のペースに合わせて食事をゆっくり摂ってもらっている。他でも自分のペースでもらう事で達成感・満足感そして、次の意欲に繋がっている。	入居者一人ひとりのペースに職員が合わせるよう努めており、その日、その時の意向を利用者に随時、確認しながら支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活スタイルが保てるように馴染みの理・美容室(移動)を利用されている。特別な行事のある日は希望者にはより入念な化粧やおしゃれの支援を行っている。	日頃から身だしなみには気を付けており、一人ひとりのおしゃれに対する意向に沿った支援に努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理・準備を行い、食事と一緒に頂いている。「片付け」は下膳を各自、出来る範囲で行って貰っている。週1回は個人の希望のメニューにしたり、誕生日にはパースデーケーキでお祝いをしている。	パン食や行事食・鍋などを使用した食事の提供を行い、楽しみが増えるよう配慮しており、調理(週1回)・準備・食事・片付けも入居者と職員が一緒に行っている。	主菜は隣接する同法人の他施設で調理されているが、盛り付けや朝食時のご飯、味噌汁等は事業所で調理する等している。配膳や下膳は、できる範囲で利用者も職員と一緒にいき、現在は職員体制の都合により対応できていないが、週に一度は昼食作りを利用者も一緒に行うなど食欲や食事への関心を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養士が作る献立(カロリー摂取量)に沿っている。職員も一緒に食事を頂くことで食事量や水分量に偏りがない様に言葉かけをしている。食事量を記録し、カロリー不足の場合は分食やおやつを時間を見ながら提供している。	入居者の食事や水分摂取量は毎日記録しており、一人ひとりの食事量や水分量・好き嫌いも把握できており、その事を踏まえた上で食事や水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	促しが必要な方は職員の目の行き届く共同の洗面所で口腔ケアを自力で行ってもらい、必要な方は介助を行っている。	入居者一人ひとりの能力に応じて言葉かけや介助等の口腔ケア(義歯洗浄含む)を行っており、口腔内の清潔保持が図れるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自室のトイレを使用され、入居前は紙パンツ使用をされていた方も布パンツ+パッド等に変更している。トイレへの促しが必要な方は排泄パターンを把握することで昼夜を問わず必要な時間に支援を行っている。	排泄支援が必要な入居者に対しては排泄チェック表を活用しており、排泄パターンの把握に努め、定期的に言葉かけを行い、トイレで失敗なく排泄できるような支援を行っている。	職員はトイレでの排泄を支援しており、日中は布パンツで過ごしていただいている。お一人おひとりの排泄習慣やパターンを把握し、自尊心にも配慮しながらの、支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時の水分補給や腹部マッサージ等を行い、その他、毎日のリハビリ体操や可能であれば散歩を行っている。	便秘を予防できる野菜・果物・乳製品等を普段からバランスよく取り入れる事が出来るような献立となっており、その他、体操や散歩など適度に体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行事や外出日・往診日と入浴日が重なり入居者の負担にならない様に実施日や午前・午後と入浴時間を分け又、着脱から入浴まで他者との関わりを嫌われる方には個室を行っている。	現在は週2～3回、午前・午後の入浴と決まっているが時間帯や順番は希望を確認しながら行っている。	入浴日や時間帯は決まってはいるが、浴槽が広いユニットでは仲の良い方同士の入浴もあり、温泉気分でゆっくり入浴していただいている。衣服の脱ぎ着などできるところは本人に任せ、羞恥心にも配慮した見守りを行っている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず、清拭や足浴などで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	なるべく一人ひとりのペースに 合わせて休息や睡眠をとって頂 きながら、昼夜逆転されない程 度に日中の個々のペースに合 わせた活動支援を行っている。	入居者一人ひとりの生活スタイル やその時々状態に応じて休息時 間を作っている。就寝時間も生 活スタイルに合わせており、個 々に合わせた明かりの調整をし たり、安眠できるよう配慮して いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	薬の説明書にて内容の把握に 努めるようにしており、主治 医の往診時や病院受診時には 状態報告を行い、薬の変更後 は特に異常や変化を見落とさ ないようにしている。	職員は薬の説明書にて目的や 副作用などを理解するように しており、服用中は症状を 観察し、変化の有無を確認 し、往診時に主治医に報告 している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 嗜好品、楽しみごと、気分 転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、得意 分野(調理・裁縫・編み物・ 唄・塗り絵・大正琴・畑仕事 ・散歩等)を継続する事で 活動意欲へと繋げられるよう 支援している。	入居者一人ひとりの生活歴 や得意分野・好み・楽しみ 事などを把握し、役割や 楽しみを持ちながら生き 生きと過ごす事が出来る よう介護計画にも反映 させている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望 にそって、戸外に出かけられ るよう支援に努めている。ま た、普段は行けないような 場所でも、本人の希望を 把握し、家族や地域の人 々と協力しながら出かける ように支援している	バリアフリーで自由に外へ 出られる。敷地が広く他 事業所へも自由に行き来 が出来ている。月1回は 季節のドライブ計画を 目標にしており、入 居者の希望を取り 入れた個別外出 支援も行っている。	散歩や行事参加・ ドライブなどの 外出支援を行 っており、その他、 個別で希望され る場所への 外出支援も 行えるよう 努めている。	四季の変化に 合わせドライ ブなどを計 画的に行っ ている。また、 敷地内の併 設事業所 内まで出 かけたり、 天気がいい 日には、 ホーム周 辺の散歩 を行って いる。利 用者が 希望され る買い 物などは 個別 外出 支援を できる 限り 行っ て い る。	
50		○お金の所持や使うことの 支援 職員は、本人がお金を 持つことの大切さを 理解しており、一人 ひとりの希望や力 に応じて、お金の 所持したり使える ように支援して いる	個人でお金を持 っている方は 1名。買い物 希望者には 事務所立 替え金にて 買い物に 行き、レジ での支払 って頂く 支援を行 っている。	入居者の能力 に応じて所 持されて いる方も おられる。 また使用 機会があ る時は入 居者の能 力と希望 に沿って 出来る だけ自分 で支払 って頂 ける よう な 支 援 を 行 っ て い る。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時にはかけているが日中何度も要望される方に関してはご家族の精神的配慮も考え、他の事で気分転換をして貰っている。希望者には手紙の支援も行っている。	希望時や家族から手紙や贈り物が届いた時などは本人の意向や能力に応じて手紙を書いたり、電話をかけられるような支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面が施設的な為、家庭的な雰囲気を出す為に飾り物・壁掛け・花等で季節感を出すように心掛けている。不快な環境を職員が作ってあれば職員が助言し合い、改善するようにしている。	音に関しては入居者の耳障りにならないよう注意しており、光や温度は個人差もある為、難しい面もあるが入居者全員が心地よく過ごせるよう配慮している。リビングには季節の花や飾り物で家庭的な雰囲気を出せるよう努めている。	一日の大半を過ごす共用空間は、リビングへの採光や周囲の音も配慮され、壁には季節感のある飾りや、外出時の写真も掲示されている。広いフロアにはソファや椅子が配置され、それぞれお気に入りの場所でテレビを鑑賞したり思い思いに自由に過ごしてもらっている。全体に穏やかな雰囲気が作りだされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング(パブリック)廊下(セミパブリック)プライベートゾーンと3つに分けた考え方ができ、椅子・テレビ等を用意し、思い思いに自分の居場所の使い分けが出来ていると思われる。	リビング(パブリックゾーン)と東西には談話室(セミパブリックゾーン)があり、利用者一人ひとりが好きな空間で過ごせるような環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物という事でご家族の写真を持ち込まれている方、愛用品など今までの生活の延長として暮らして貰い、ご本人のペースに合わせている。	居室には使い慣れた馴染みの物を持って来て頂くようにしており、その他、本人が好まれる、居心地よい空間作りに努めている。	居室には、寝具も含め使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、落ち着いて暮らせるよう支援している。今は退居されているが、仏壇に毎朝のお仏飯や水を供える利用者もいた。居室のトイレ掃除は職員が行うが、利用者もできることを手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動して頂けるように居室内のダンスやベッドの位置を変えたり、最善の配慮をしながらその人の「出来ること」の維持に努めている。	居室内のダンスやベッドも利用者一人ひとりのADLの状態に応じて配置したり、安全面と自立に配慮した空間作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない